

日本子ども虐待防止学会 第31回学術集会ほっかいどう大会 公募シンポジウム

こども家庭センターにおける妊婦・こども・子育て家庭との伴走の具体
—自治体職員、民間職員の役割—

発表2 参加者がSOSを出せる場所づくりを目指すプログラム



社会福祉法人子どもの虐待防止センター
山川玲子

日本子ども虐待防止学会 第31回学術集会ほっかいどう大会 COI開示

発表者 山川玲子

演題発表に関連し、
開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

「親と子の関係を育てるペアレンティングプログラム」®



1. 本プログラムの特徴
2. 効果測定の結果
3. ファシリテーター
養成講座修了者の感想
4. こども家庭センター実践の具体

社会福祉法人
子どもの虐待防止センター
Center for Child Abuse Prevention

社会福祉法人子どもの虐待防止センター (CCAP) の活動

1991年5月 設立

- ◆ 電話相談事業
- ◆ MCG事業
- ◆ 里親・養親支援事業
- ◆ ペアレンティング事業
- ◆ 子どもケア事業
- ◆ 教育広報事業
 - ・研修・セミナー企画実施
 - ・講師派遣等
- ◆ 子どもと家族のメンタルクリニック やまねこ

社会福祉法人子どもの虐待防止センターの立ちあげから

<アメリカの虐待についての小児科対応マニュアルに「救急外来にいかにも虐待によるものと思われるケガややけどを負った子どもを連れて親がやってきたら、医師は決して親を責めてはならず、まず親をねぎらいなさい。」と書かれてあった。>

- ・虐待をしている親は、地域からも親族からも孤立している。
- ・たとえ親は虐待を認めなくても『もう止めさせてほしい』と叫んでいる。

「親をねぎらい、親子が共に暮らしていけるよう、地域で親を支援していく取り組みがなにより重要である」

元理事長の坂井聖二（小児科医・2009年逝去）の著書から

子どもを守るためにの親支援

プログラムの特徴

1. 子育てに悩む多くの親の声に耳を傾けてきた相談員が作成した
2. 心理教育を導入したプログラム
3. 足しもしない引きもしない見たままを伝える実況中継
4. 日常生活の場面を想定してのロールプレイ
5. ファシリテーターが居る場所(機関)にSOSを出せる関係をつくることを目指す

プログラムを受けたい動機を持つ参加者の多くは

親モデルのない子育てで

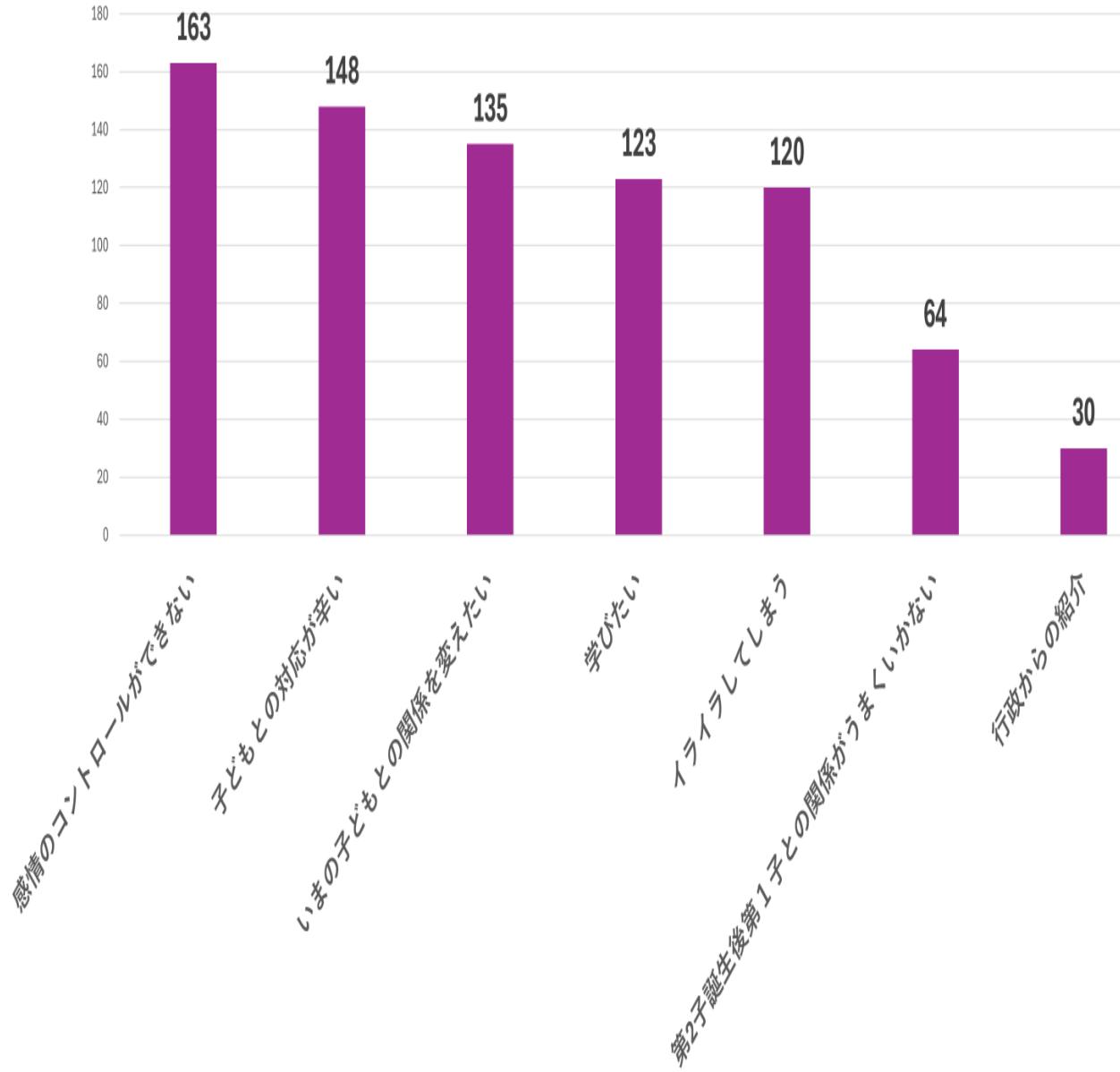
孤軍奮闘・悪戦苦闘・疲弊している

相談の敷居は高いがプログラムは手を上げやすい

現状を何とかしたい！！ 誰か助けて！！ SOS！！

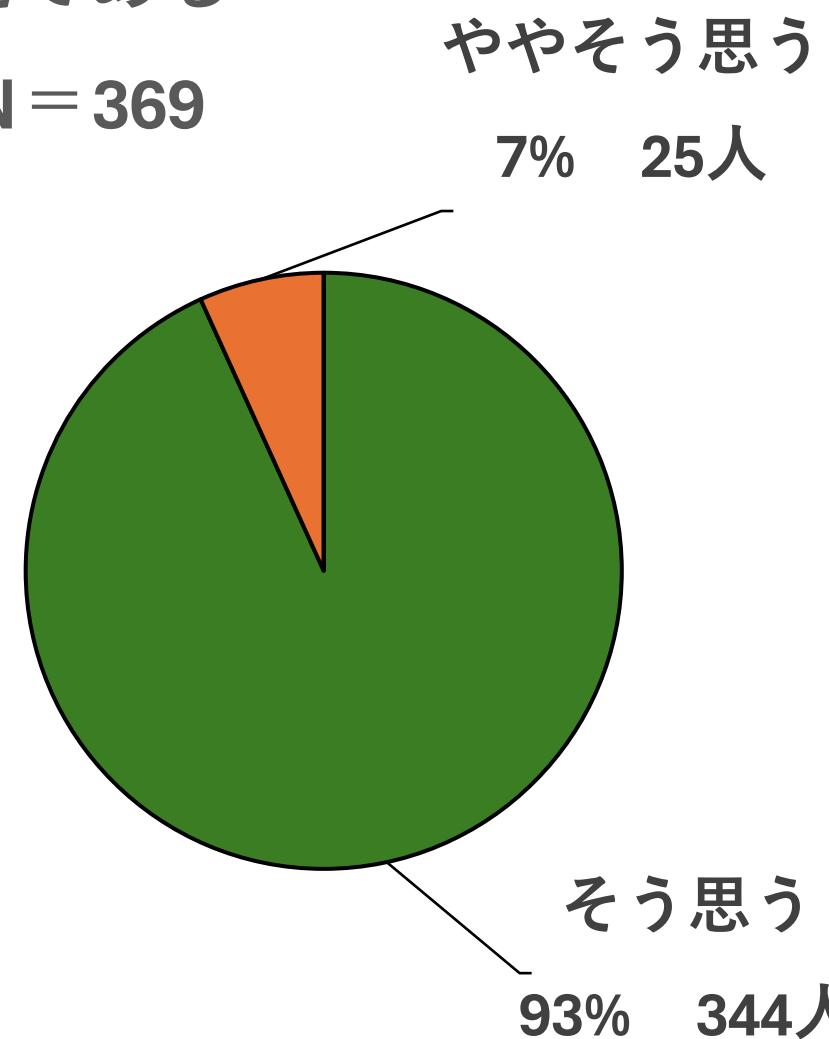
効果測定検証 アンケートとPAAI虐待心性尺度の 結果から

受講の動機 N=382 複数回答



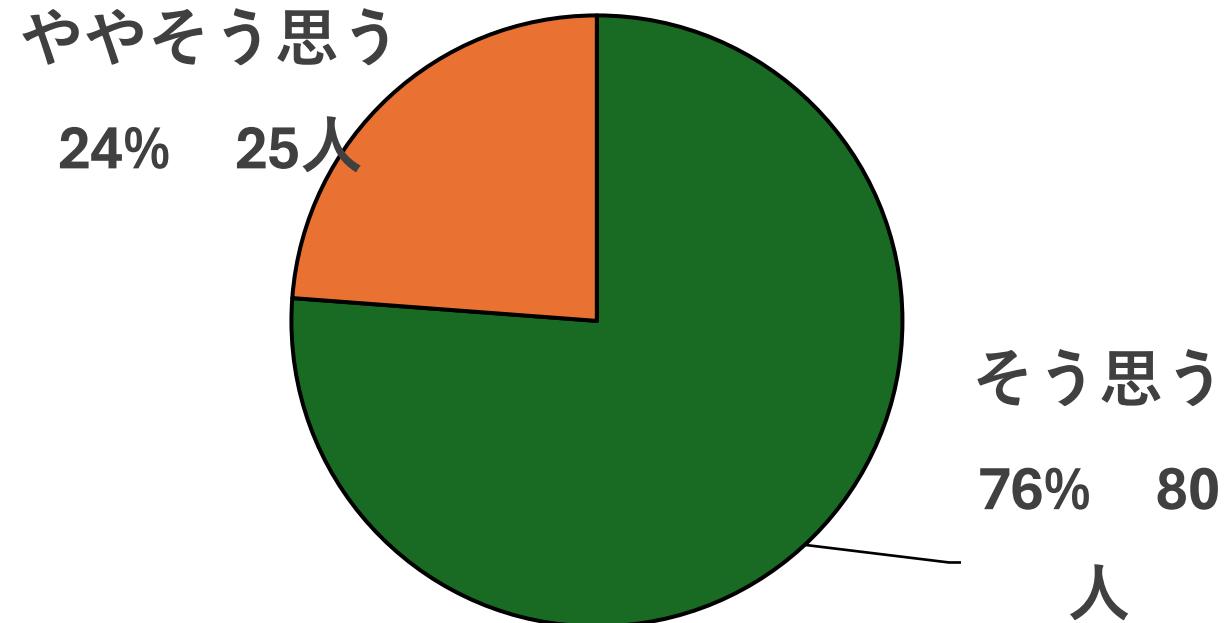
このプログラムに
満足である

N = 369

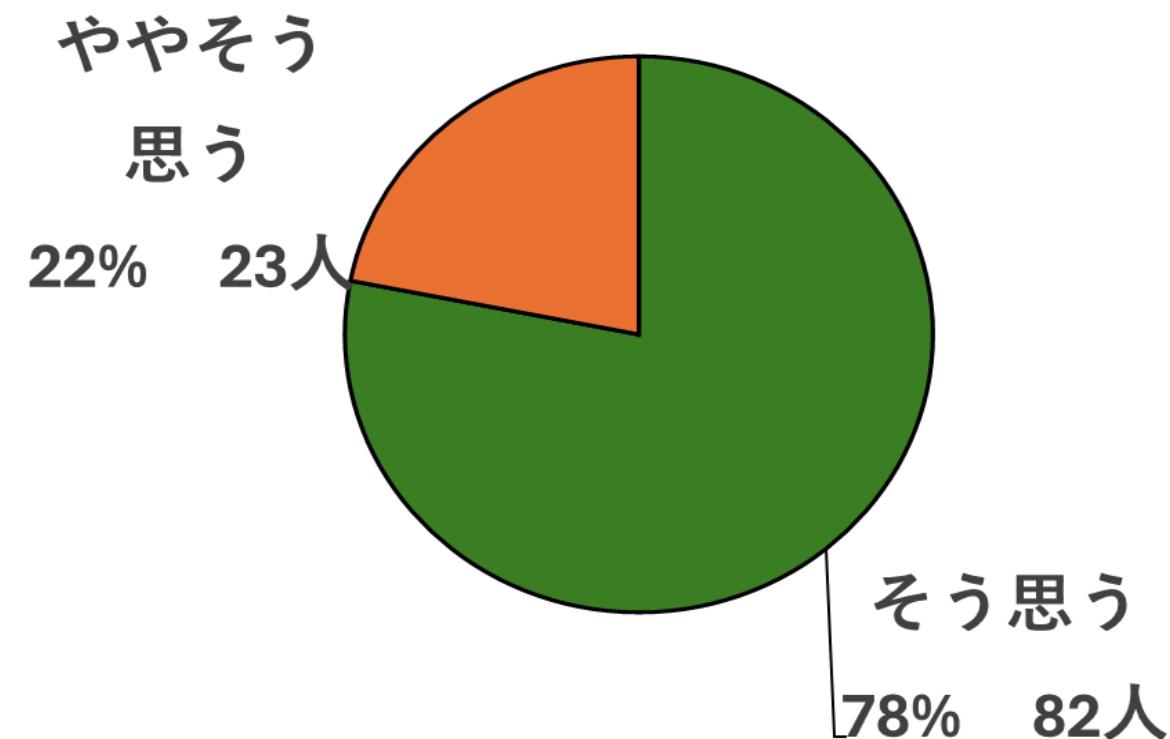


あなた自身が変化したと
感じることがある

N = 105



実況中継を使っている
N=105



プログラムの効果測定

PAAI虐待心性尺度

- ・ 1歳6ヶ月児健診 3歳児健診 9歳児を持つ一般家庭の母親600人
- ・ 理論的に虐待の心理に繋がると思われる150項目について因子分析
- ・ 48項目からなる7つの因子が抽出

因子

＜自信欠如＞＜非受容＞＜体罰肯定＞
＜被害的認知＞＜完璧志向性＞
＜拒否嫌悪＞＜疲弊感＞

プレとポストで比較 N=350

7因子と総得点全てに有意な差が見られた

CCAP版「親と子の関係を育てるペアレンティングプログラム」® コロナで身動き取れず止まっていた種蒔き

◆全7回のプログラム (2016年～2025年度まで)

自治体からの依頼を受けてCCAPファシリが実施した場所と人数

文京区・江東区・武蔵野市 川崎市 411人

◆2022年から里親バージョンを宮城県で実施試行を経て2026年3月第1回養成講座実施決定

◇親御さんの明確な参加動機を確認して実施するプログラムなので再統合に使わない！！

◆ プログラム6回の内容を2時間で伝えるダイジェスト版 (2016年度～2025年度)

1500名以上の参加者に実施

他川越市公立保育園20園・児童発達支援センター職員に実施

◆ 本プログラム実施者養成講座 (2018年～2025年10月現在)

本法人主催で14回、大分県児童相談所・大分市子ども家庭支援センター主催で6回、

埼玉で5回、新潟長岡2回、宮城県で1回、原則18名を上限に現在472名の実施者が誕生している。

ファシリテーターの8割強が自治体職員である。

民間施設職員,

85人(18.0%)

自治体職員,

387人(82.0%)

N=472

■自治体職員 ■民間施設職員 ■CCAP ■児童養護施設

図 自治体職員と民間施設職員の人数比率

子どもを守るために
親を支援する
支援を必要とする親との関係を作る

経験の少ない支援者にも
すぐに使えるとの感想が多い



ファシリ テーター 養成講座 修了者の 無記名の 感想から

- 児相で勤務しているとついつい指導的になってしまふ。何か教えてあげないと、何か持つて帰つてもらわないと、何か変化を起さないとという気持ちになっている自分に気が付くことができました（親への要求度が高い）
- プログラムの柱に「親と子の関係を育てる」という大事なものがあって、それを達成するためにはまずファシリテーターが保護者を受け入れ、家に帰つた後のモデルになるように作られているんだなと感じました。プログラム中私たち支援者が共感し受け止めて、関係ができてきたら保護者を尊重した提案ができると良いなと思いました。
- 特に印象的だったのは実況中継のほんとに短い言葉がいかに子どもの安心感につながるかということでした。ロールプレイの子役を演じましたがその一言を言ってもらえるだけで本当にほっとしたし認めてもらえると感じたので仕事でもプライベートでも積極的に使っていきたいと感じています。
- 最後に講師が安全な雰囲気と何を言っても「OK」と言ってくださる安心感がすごく良いモデルでした。肯定ってやっぱりだいじだなと実感させていただきました。

実際に
どのように
こども家庭セ
ンターで使わ
れているのか

PAAIから
読み取ること
で出来ること

◆ PAAIの結果からアセスメントが可能になり、参加者の安心・安全なグループ運営の手がかりがつかめる。

◆ 修了後参加者自身が現状の困難に気付く・使えるサービスの提案・こども家庭センター継続相談・適切な専門相談につなぐことができる。

プログラムの実施・終了カンファレンスまでCCAPと一緒に参加しています。

相談の敷居は
まだまだ高いが
プログラムへは
自ら手を挙げて
参加がしやすい！

実践の具体

2時間×6回+FU
2クール

来年度は3クール

- ・どのように広報をしているか

公募 市報（区報）・HP

対象 子育て中の親御さん

市内の全小学校・全幼稚園・全保育園

参加者が多くて選考に困っている

- ・応募者の中に

要対協（関係が取れないケース）・

近隣通報・継続ケースなど

- ・保育 保育士・地区担当CW

CWがお子さんの状況の確認

CWが地区担当の職員であることを

参加者に自己紹介して関われる

こんなにおいしいものを手放すなんてできない！

ダイジェスト版 実践の具体

通常バージョン
2時間×6回
プログラム



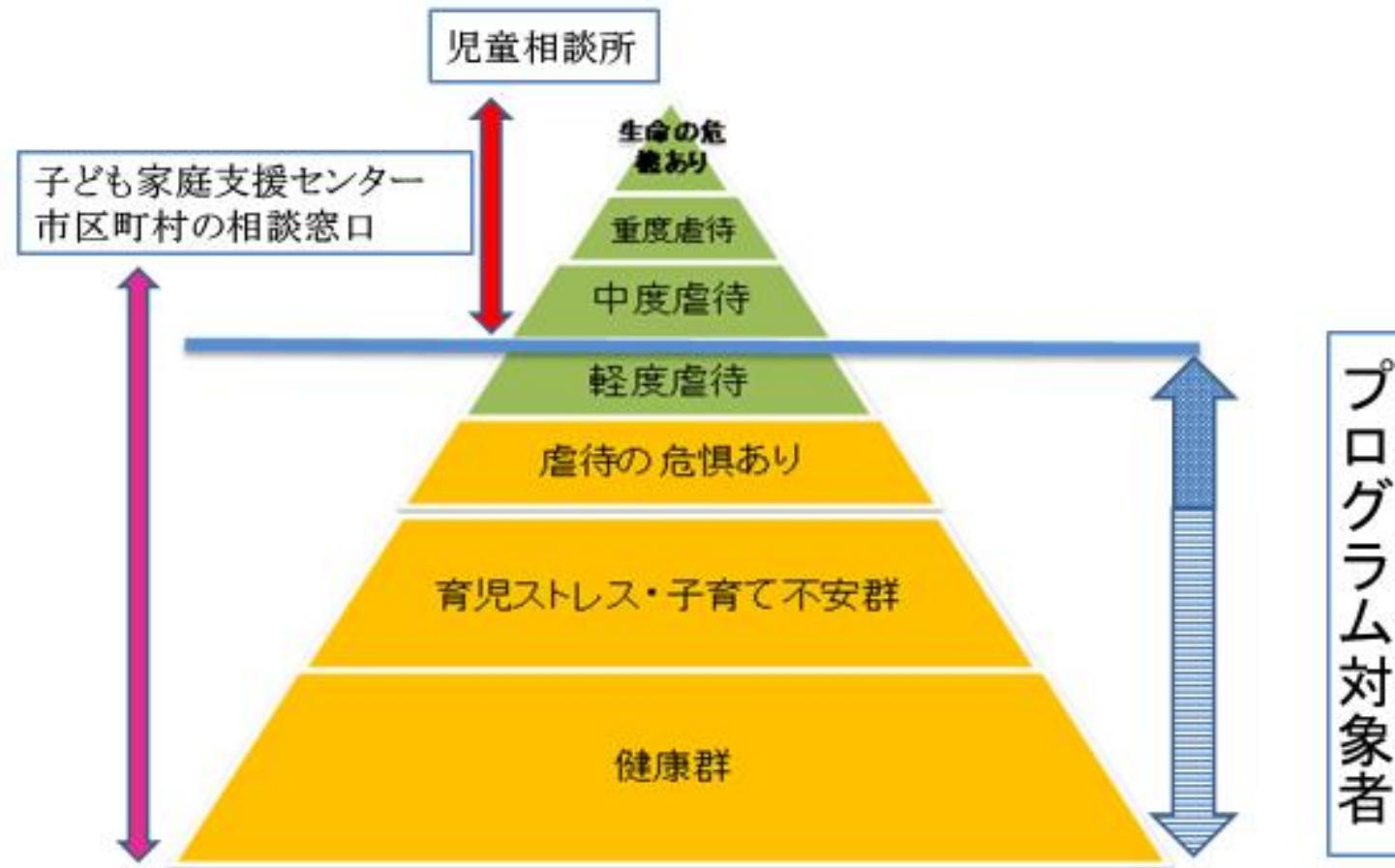
2時間に纏めた

こども家庭センター主催

- ◆ 平日親御さん向けた講座として
- ◆ 夫婦参加の土曜講座
- ◆ 6回通常バージョンに繋ぐ前段
- ◆ 職員研修
- ◆ 保育士研修

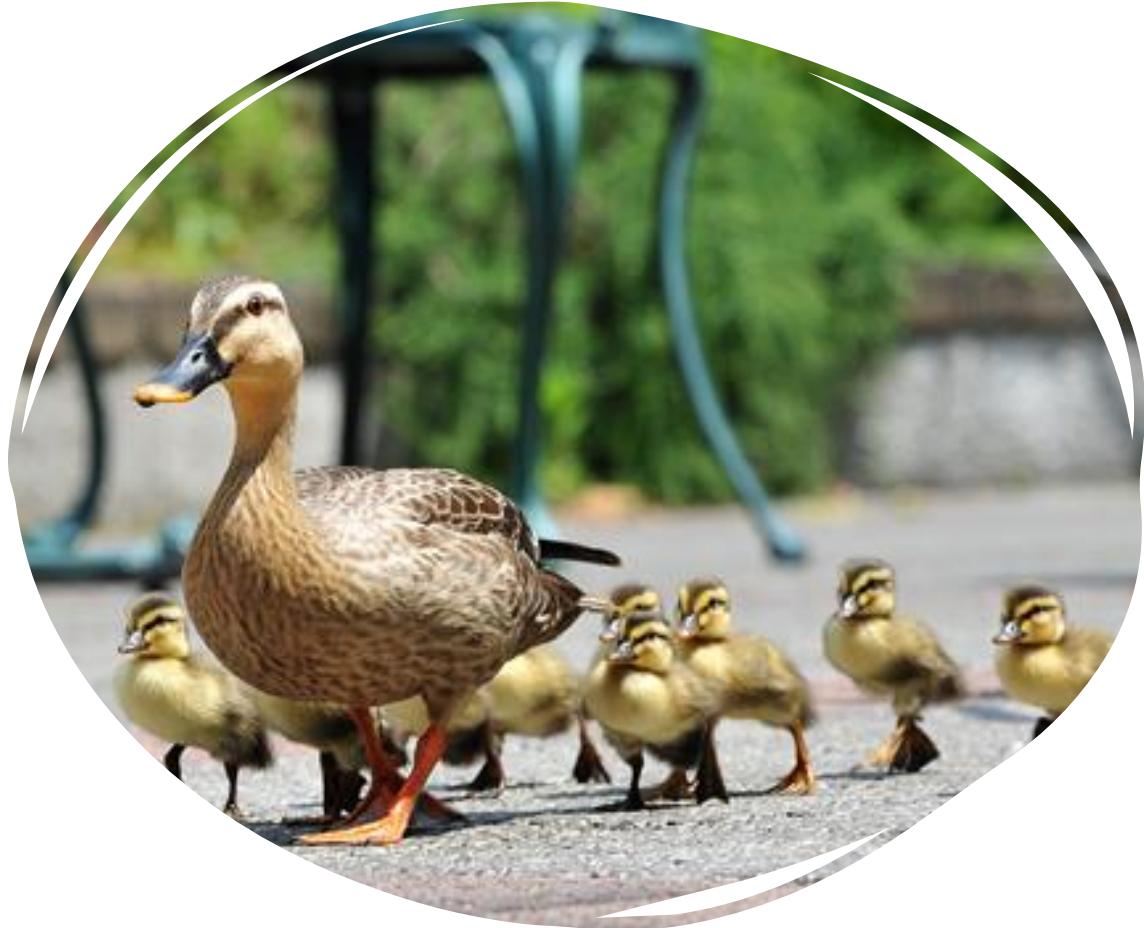
保健センター主催

- ◆ 妊娠中からのパパママ講座
- ◆ 親グループミーティングの導入部
- ◆ 職員研修



いま私たちが
すべきことは
なにか

いま私達にできる
こと・いまここから



ご清聴ありがとうございました

家族からのSOSを受信する
アンテナが機能し、ひとり
でも多くの子どもたち、家
族が皆さんとの受信と支援に
よって救われることをお祈
りします。